

RCAST NEWS

東京大学先端科学技術研究センター



6/1 (金) ~ 6/2 (土) 公開時間 10:00 ~ 17:00
東京大学駒場リサーチキャンパス公開



Contents

Special Issue 「駒場リサーチキャンパス公開」

オープニングセレモニー

所長挨拶	02
基調講演「復興と災後社会の目指すもの」 御厨貴客員教授	03
研究室展示	04
理科教室	08
「昆虫の脳と行動のしくみをさぐる」 神崎研究室	09
「オリジナル太陽電池をデザインしよう」 岡田研究室	09
「光通信の秘密をさぐる」 森川研究室	10

若手研究者が奮闘	11
講演会	12
キャンパス公開ヒトコマ	13

RCAST Report - 活動報告 -	14
Research, Event, International, Media etc.	

Information	15
Winning, Event, Book, HR ect.	

Special Issue

駒場リサーチキャンパス公開を開催!

駒場リサーチキャンパス公開(先端科学技術研究センター・生産技術研究所主催)が6月1～2日まで開かれ、近隣住民や企業関係者、中高生など約5120人が来場した。キャンパス公開は科学の楽しさに触れてもらおうと、両所が毎年開催しているイベント。先端研では28研究室がデモンストレーションや模擬実験、講演会などさまざまな企画を用意し、研究成果を展示した。

各展示会場には最新型の太陽電池やロボットなどの研究成果物や解説パネルなどが並べられ、来場者は研究者に積極的に質問するなどして研究への理解を深めていた。

また、キャンパス公開では、若い人の科学への関心を高めようと、「未来の科学者のために」のテーマを掲げてさまざまな企画を実施。小・中学生向けに理科教室を開催したほか、生研の社会貢献組織「Scientists for the Next Generation (SNG)」事務局が受け入れ窓口となって、2日間で計900人以上の中高生が来場した。



— 研究成果展示や理科教室 —

オープニングセレモニー

オープニングセレモニーで生研の中埜良昭所長と先端研の中野義昭所長があいさつに立ち、中野所長は、「先端研は文理融合を特徴とし、設立以来、新たな研究分野の創出に挑戦し続けてきた研究所。2日間さまざまな分野の研究室が公開されているので、オープニングセレモニーのテーマでもある『復興と防災』にどのように貢献しているかご理解いただき、忌憚ないご意見を伺えればありがたい」とあいさつ。御厨貴客員教授が「復興と災後社会の目指すもの」をテーマに講演した。

「えっ、同姓同名？」



あいさつに立った生研の中埜良昭所長と先端研の中野義昭所長は、平仮名にすると同姓同名の「なかのよしあき」。両所長ともあいさつの中で、名前がローマ字表記される外国からの郵便物が間違って届けられたことなど、同姓同名が理由で起きたハプニングを披露し、会場の笑いを誘っていた。

あいさつする中野義昭先端研所長(左)と中埜良昭生研所長(右)

御厨客員教授が基調講演「復興と災後社会の目指すもの」

基調講演では、政府の復興構想会議(現・復興推進委員会)の議長代理を務めた御厨貴客員教授が「復興と災後社会の目指すもの」をテーマに、福島県の復興の状況や災後社会について語った。

御厨教授は、5月下旬に福島県を視察。率直な感想として、「震災から1年以上たって、復興格差がはっきりしてきた」と指摘した。復興計画がうまくいきそうな地域には、現地の市役所や町役場職員に優秀な人材がいて、「地域の被災状況を的確に把握し、『打てば響く』というようなしっかりした語り口で具体的な説明ができる。被災という事実をうまく、自分たちが住む地域の整備計画に取り込んでいる」と述べた。

さらに、被災地が目的意識を持ち、地域の個性に合った形で、ほかの地域や大学、国などと「つながる」ということの大切さを強調。「よそからの発想、知恵が入ることで、その地域が、被災地から先端の地域へ化けていく可能性がある」と語った。

基調講演をする御厨貴客員教授



Special Issue 一駒場リサーチキャンパス公開一



研究室展示

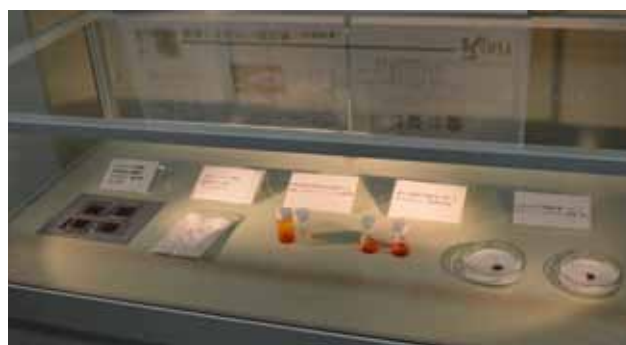
中高生や企業関係者などたくさんの来場者があるキャンパス公開は、先端研の成果をアピールする絶好のチャンス!とあって、各研究室が研究成果物を展示したり、デモンストレーションを行うなどして、最先端研究をわかりやすく説明した。来場者は、会場の研究者に質問したり、写真を撮るなどして、興味深そうに展示を見学していた。

未来の新エネルギー@ 14号館 1階カフェ



展示内容を説明する久保貴哉特任教授

先端研ではクリーンで無尽蔵な太陽光エネルギーを利用した次世代太陽電池や微生物を利用した「田んぼ発電」など、新エネルギーに関するさまざまな研究が行われている。14号館カフェでは、こうした新エネルギー関連の研究を行う瀬川研究室(エネルギー環境・瀬川浩司教授)、橋本研究室(インテリジェント材料学・橋本和仁教授)、岡田研究室(新エネルギー・岡田至崇教授)、中野研究室(情報デバイス・中野義昭教授)、GENNAI(超高効率太陽電池・富田孝司特任教授)が、一堂に集まって研究成果を展示。実用化に向けて急ピッチで研究が進められている集光型や色素増感型など、さまざまな種類の太陽電池が並べられ、企業関係者や学生らが太陽電池の仕組みや将来性について質問する姿が見られた。



瀬川研究室(エネルギー環境・瀬川浩司教授)は色素増感型太陽電池の実物や材料などを展示し、仕組みについて解説した

お天気と大気環境の科学@ 14号館 1階カフェ

数値解析や観測など多角的な視点から気候や天候に関する研究を行っている中村・竹川研究室(気候変動科学)。ポスターや動画を用いて分かりやすく研究成果を展示し、天気予報や異常気象の仕組みのほか、地球温暖化の影響など、日ごろ気になっている大気に関する疑問に答えた。また、福島第一原子力発電事故で大気中に放出された放射性物質がジェット気流に乗り、北米やヨーロッパに達した広域輸送過程など、最新の研究成果について来場者に説明していた。



中村尚教授(左)も会場で説明した



放射性物質の輸送過程についてパネルで説明

介護者の負担を減らす小型軽量の車椅子



高齢者や障害者の日常生活を支援する バリアフリー機器@ 3号館中2階セミナー室



腰への負担を減らすスコップ

田中研究室(人間情報工学・田中敏明特任教授)は、日常生活のバリアーを取り除くため、障害を科学的に分析し、現場が求める機器の開発研究を進めている。会場では、バランストレーニング機器、バーチャルリアリティ技術を用いたリハビリトレーニング、介護従事者の負担を減らす移動支援機器、腰への負担を軽くする除雪用のスコップなどを展示した。



高齢者や障害者の日常生活を支援する
バリアフリー機器について解説した

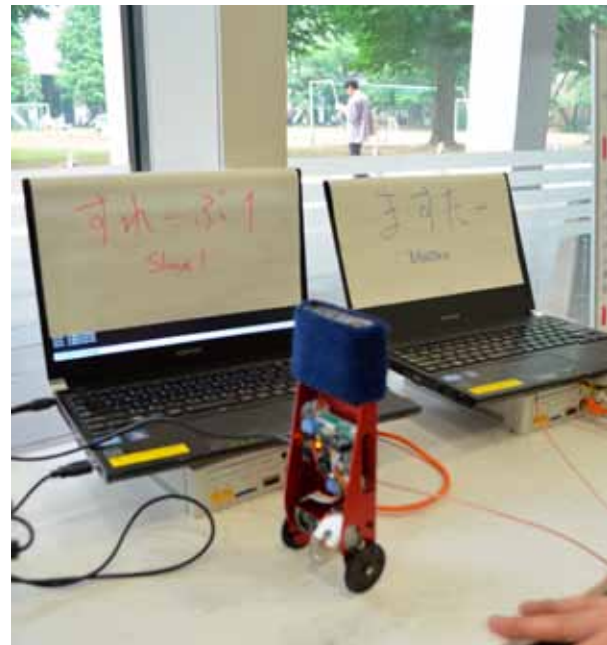
ICTによるスマートな社会の実現を目指して@ 3号館南棟 1階ロビー

森川研究室(情報ネットワーク・森川博之教授)は、高速データ通信ができ、工場などで実用化が期待されている「リアルタイムワイヤレス」を紹介するデモンストレーションを行った。



展示物について熱心に質問する来場者も見られた

高速データ通信ができ、工場などで実用化が期待されている「リアルタイムワイヤレス」を紹介するデモンストレーションを行った



Special Issue 一駒場リサーチキャンパス公開一

実験から見えてくる心の仕組み@ 3号館中2階アトリウム



認知科学の実験が体験できるコーナーを設置した渡邊研究室(認知科学・渡邊克巳教授)。研究員が実験結果をもとに、心を作り出している意識的・無意識的過程について、科学的に解説をしていた。

渡邊研究室の展示会場



真剣な表情で認知科学の実験に参加する来場者

Et cetera



コンピューターを使ったIT創業について説明する浜窪隆雄教授(分子生物医学) @ 4号館1階ラウンジ



神崎研究室(生命知能システム・神崎亮平教授)ではカイコガを使ったロボットを展示した@ 3号館南棟3階



「医療を改革するマイクロナノマシンとナノロボット」をテーマに展示した生田研究室(医用マイクロマシン・生田幸士教授) @ 4号館2階EVホール



岩崎・矢入研(知能工学)の展示では、衛星画像から標高データを再構成した地図をスクリーンに表示。参加者は3D眼鏡をかけてコントローラーを操作し、フライトシミュレーションを体験した@ 3号館中2階セミナー室

研究室公開一覽



分野名	研究室	公開テーマ	公開場所
化学認識機能材料	宮山勝・野口祐二	電気を蓄え利用する：強誘電体とプロトン電池	4号館 4階 404号室
高信頼性材料	香川豊	高熱を使いこなす軽量耐熱材料	4号館 2階 講義室
気候変動科学	中村尚・竹川暢之	お天気と大気環境の科学	14号館 1階 カフェ
インテリジェント材料学	橋本和仁	光化学を基礎とする環境・エネルギー化学技術	14号館 1階 カフェ
エネルギー・環境技術国際研究拠点 (Solar Quest) 関連展示			14号館 1階 カフェ
エネルギー・環境	瀬川浩司	有機系太陽電池が拓く未来	
新エネルギー	岡田至崇	ナノテクノロジーで次世代太陽電池を開拓する	
超高効率太陽電池	GENNAI (富田孝司)	お米から太陽電池が作れるか?	
情報デバイス	中野義昭・種村拓夫	半導体集積フォトニクスでエネルギー問題を解決する	3号館 3階 セミナー室
情報デバイス	鈴木宏正	3次元スキャンによるリバースエンジニアリング	4号館 3階 303号室
製造情報システム	日暮栄治	集積光マイクロデバイスを目指し、異種材料を実装する	4号館 3階 307号室前廊下
生命知能システム	神崎亮平・高橋宏知	学際的アプローチによる昆虫微小脳を理解	3号館南棟 3階
情報ネットワーク	森川博之	ICTによるスマートな社会の実現を目指して	3号館 5階 513号室
知能工学	岩崎晃・矢入健久	宇宙における知能工学	3号館中 2階 セミナー室
数理創発システム	西成活裕	渋滞学への招待	4号館 2階 講義室前廊下
生命知能システム	廣瀬通孝・谷川智洋	バーチャルリアリティを体験してみよう	13号館 B1F VRシアター
LSBM			4号館 1F ラウンジ
システム生物学		タンパク質とエピゲノムを解析・予測し薬を作る	
分子生物学		コンピュータでがんの薬を作る	
ゲノムサイエンス		パーソナルゲノムにもとづいたがん医療	
代謝医学		メタボリックシンドローム —記憶される生活習慣の科学—	
医用マイクロマシン	生田幸士	医療を改革するマイクロマシンとナノロボット	4号館 2階 ロビー
生命反応化学	岡本晃充	ダイナミックな DNA や RNA を診るための化学	3号館 6階 EV ホール
ネクスト・バリアフリー			3号館 1階 エントランス
バリアフリー	福島智		3号館中 2階 アトリウム
人間支援工学	中邑賢龍		3号館 2階 セミナー室
支援情報システム	巖淵守		
人間情報工学	田中敏明	高齢者・障がい者の日常生活を支援するバリアフリー機器	3号館中 2階 セミナー室
認知科学	渡邊克巳	実験から見えてくる心の仕組み	3号館中 2階 アトリウム
風洞運営委員会		風洞実験棟見学ツアー開催	1号館 風洞実験棟

Special Issue 一駒場リサーチキャンパス公開一

理科教室

子どもたちに科学の楽しさを伝えようと、神崎研究室、森川研究室、岡田研究室はキャンパス公開に合わせて、小・中学生向けのユニークな理科教室を開催。計50人が参加した。「実験をするのは初めて」という参加者も多く、機器や装置、昆虫などに興味深々。質疑応答も活発で、実験中は真剣な表情を見せていた。事後アンケートでは、「楽しかった」、「来年もまた参加したい」との声が多く寄せられた。



フェロモンをかぎ分けられるかを確かめる実験にもチャレンジした

「昆虫の脳と行動のしくみをさぐる」

@神崎研究室

神崎研究室は「昆虫の脳と行動のしくみをさぐる」をテーマに、小学4～6年生の19人が参加し、安藤規泰助教が講師を務めた。参加者は、昆虫に秘められた優れた能力を探るため、さまざまな実験に取り組んだ。メスのカイコガからフェロモンを抽出する作業にも挑戦。オスのカイコガにスポットでフェロモンを吹きかけ、メスがいなくてもおいだけでオスが反応する様子を注意深く観察していた。



触角を切断したオスのカイコガと正常なカイコガにフェロモンをかけて反応を比較した

腕の筋肉の電気信号で動くラジコンの操縦に挑戦

「オリジナル太陽電池をデザインしよう」@岡田研究室



太陽電池の電極を描く参加者

岡田研究室のテーマは、「オリジナル太陽電池をデザインしよう」で、小学5年生以上の15人が参加した。星井拓也助教の指導のもと参加者は、太陽電池の基板に導電性インクペンを使って電極を描く作業に挑戦。力みすぎて基板が割れてしまうなどのハプニングもあったが、動物のイラストや自分の名前が入った太陽電池を完成させると、さっそく蛍光灯の光に当てて電圧と電流をチェック。世界に一つだけの太陽電池の起動力をうれしそうに観察していた。



自分でつくった太陽電池の電流や電圧を調べた

Special Issue 一 駒場リサーチキャンパス公開一



光通信で送信した音楽を聴く参加者

「光通信の秘密をさぐろう」@森川研究室



実験の内容について説明する李斗煥講師

森川研究室は「光通信の秘密をさぐろう」をテーマに開催。李斗煥講師の指導のもと、小学5年生以上の16人が2つの実験に挑戦した。最初に、コップの穴からでる水にレーザーポインタを当てて、水に沿って光が曲がる「チンダル現象」を観察。全反射を繰り返すことで情報を伝送する光通信の仕組みを理解した。次に、音楽プレーヤーから流れる音楽をLED光に変換。その光を太陽電池パネルと光復調機を用いて、再び電気信号に変換して聴く実験に挑戦。電気信号を光に変換して送受信する光通信の原理を味わった。

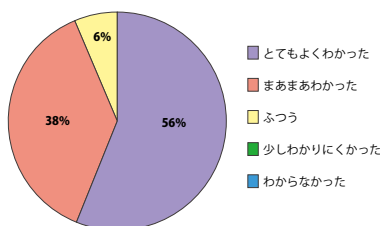
アンケート結果

理科教室の参加者50人に事後アンケートの協力を依頼し、32人から回答が得られた。質問1「説明してくれた先生のお話は分かりましたか」では94%が「分かった」と回答した。質問2の「理科教室は楽しかったですか」については、97%が「楽しかった」と回答した。また、質問3の「来年も理科教室に参加したいですか」では、72%が「参加したい」と回答した。

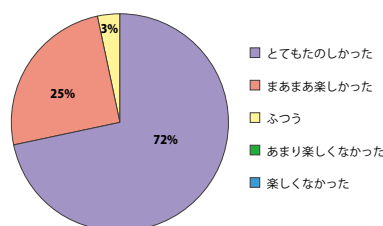
感想

- ・虫の細かい部分まで知れて良い経験になった。
- ・今日はいろいろな昆虫のことを知れて楽しかったです。また来年も来たいです。
- ・本物のカイコで実験できたのがとても楽しかった。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったです。是非ラジコンのようなものを動かしたいです。カイコは「とても小さい」としか思えていなかったのので、「なるほど〜!」と思いました。
- ・自分でデザインしたパネルが電気を通した時にとても感動しました。
- ・絵を描くのが楽しかった。
- ・名札を記念に持って帰りたいかったです。ありがとうございました。
- ・光を音にして聞くのが楽しかった。
- ・画面にはいろいろなことが書いてあったけれど説明されたのはその一部分だけだったのでもったいないと思った。
- ・来年も絶対行きたいです!
- ・せつめいがよくわかった。
- ・むずかしい光ファイバーをわかりやすくせつめいしてくれたので良かったです。
- ・光通信についてよくわかりました。面白かったです。

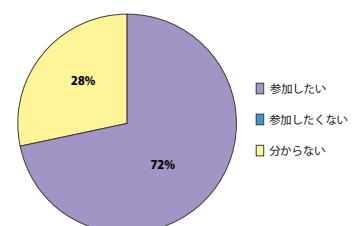
【質問1】説明してくれた先生のお話は分かりましたか



【質問2】理科教室は楽しかったですか？



【質問3】来年も理科教室に参加したいですか？



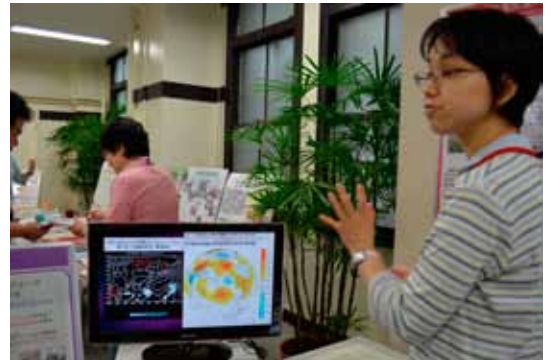
展示説明や理科教室で若手研究者が大活躍！

キャンパス公開では、学生や助教などの若手研究者が大活躍した。研究の合間を縫って準備にあたり、当日は日頃の研究活動で鍛えたプレゼン能力をいかんなく発揮して、来場者からの鋭い質問にも丁寧に回答。若手研究者が中心となって企画や運営にあたった理科教室も好評を博した。

研究説明に学生も奮闘

中村・竹川研究室(気候変動科学)の武樋落子さん(理学系研究科地球惑星科学専攻修士2年)は、展示会場の準備や当日の展示の説明にあたった。武樋さんは、「高校生には分かりやすく噛み砕いて、知識がある方にはそれを前提に少し専門的な解説も加えた」といい、来場者の反応を見ながら臨機応変な対応を心がけた。武樋さんは、「知識を再確認する良い機会にもなったし、たくさんの人が地球温暖化や異常気象に関心を寄せてくれているということが分かってうれしかった」と2日間を振り返った。

展示内容を説明する中村・竹川研の修士2年、武樋落子さん



見学者対応はスーツで

宮山研究室(化学認識機能材料)は、「公の場なのできちんとした服装で」との方針で、全員がスーツ着用で見学者に対応。たくさんの企業関係者や中高生が研究室を訪れ、北中佑樹研究員は、「熱心にメモを取ったり質問してくれて、やりがいがあった」と話す。

高校生に研究内容を説明する宮山研究室の北中佑樹研究員(左)

好評だった理科教室、次は海外で開催！

岡田研究室(新エネルギー)の星井拓也助教は、「オリジナル太陽光電池をつくろう」をテーマに、理科教室を開催。研究の合間を縫って、「基板に導電性インクで好きなように電極を描いてもらう」という企画を練り、既製の太陽電池の電極を取り除いた基板を用意した。駒場の実験室には電極を取り除く道具がなかったため、2週間、毎日のように本郷キャンパスへ通った。午前10時から深夜まで作業に追われる日もあったが、「楽しんでもらえたようで良かった。こうした活動は研究者としても大事なことだと思うので、これからも力を入れていきたい」と星井助教は語る。今回のユニークな理科教室が評判となり、星井助教には、独立行政法人「国際交流基金」から海外の子どもたち向けに理科教室を開催してほしい、との依頼も舞い込んだ。8月上旬には、トンガ、ニュージーランド、フィジーで同様の理科教室を開催する予定だ。

理科教室で説明する岡田研究室の星井拓也助教(中央)



Special Issue 一駒場リサーチキャンパス公開一

講演会

講演会では今注目の研究者が講演し、たくさんの方が熱心に耳を傾けていた。先端研からは、量子ドット型太陽電池の第一人者として知られ、日欧間での太陽光発電分野における技術協力プログラムに取り組む岡田至崇教授（新エネルギー）、科学者の立場から福島県での除染対策を提言したことなどが評価され、英科学誌ネイチャーの「科学に影響を与えた今年の10人」に選ばれた児玉龍彦教授（システム生物医学）、障害や病気を抱えた学生のための大学・社会体験プログラム「DO-IT Japan」を主宰し、2011年秋に優れた教育を顕彰する博報賞（博報財団主催）を受賞した中邑賢龍教授（人間支援工学）の3人が講演した。



次世代高効率化合物太陽電池の研究紹介

岡田至崇教授は量子ドット型やタンデム型など、最先端の太陽電池研究について解説した。



予測の科学* IT 創薬と 放射線被害から

児玉龍彦教授は、福島県南相馬市での除染活動などの取り組みも交えて講演した。



多様性理解から社会をデザインする —社会を動かす新しい研究アプローチ

中邑賢龍教授は、障害などで学習が困難な生徒のITの活用の現状などを解説した。

事務職員は受け付けや会場設営などで運営を支えた



キャンパス公開ヒトコマ

SNGの見学者受け入れ



SNG事務局が受け入れた見学者のうち、先端研では福島県立郡山高校、品川女子学院、就実中学、安田学園高等学校、都立戸山高校から約160人の生徒の団体見学を受け入れた。生徒は十数人の計11グループに分かれて2研究室ずつ見学。各研究室では担当者がSNGの腕章をつけ、展示物の説明やデモンストレーションを行うなどして科学の楽しさを伝えた。

都立戸山高校の生徒に研究内容を説明する堤修一特任准教授(ゲノムサイエンス)

先端学際工学専攻説明会を開催

2日には「先端学際工学専攻」(東京大学大学院工学系研究科博士課程)の説明会も開催され、16人が参加した。「先端研には、大学院がある。～間口は広く、研究は深く～」をテーマに、神崎亮平教授が入試やカリキュラムについて説明したほか、専攻在籍者や卒業者が先端学際工学専攻での研究生活について紹介した。



昨年度からキャンパス公開ワーキンググループを発足



先端研では、キャンパス公開に向けて、2011年11月に「キャンパス公開ワーキンググループ」(委員長・年吉洋教授)を発足させ、準備を進めてきた。ワーキンググループには、環境・エネルギー、材料、生物医科学、バリアフリー、情報、社会科学の6分野の若手研究者が各1名ずつ参加。同年12月15日の第一回ミーティングから計3回にわたり、理科教室や展示内容などの企画を練ってきた。

キャンパス公開直前に開催されたWGで最終確認をするメンバー=5月17日

キャンパス公開の概要について記者会見を行う、年吉キャンパス公開委員長=5月24日

駒場リサーチキャンパス公開を振り返って

キャンパス公開委員長 年吉 洋

キャンパス公開を控えた数日前に、13号館前の立木から巣立った雛を守るべく、親カラスが盛んに飛び回っていました。来訪者の方々の安全が気になりましたが、巣立ちも公開も無事に終わってホッとしています。これもひとえに先端研の皆様のご協力と、またなによりも、今年から新たに発足した「キャンパス公開ワーキンググループ」メンバーの御尽力のお陰です。この場をお借りして、御礼申し上げます。

次回に向けて提案です。キャンパス公開の前の週に宣伝のための記者会見を行いました。たんにイベント開催の周知だけでは、いまひとつプレスの食い付きがよくありません。そこで研究者の皆様におかれましては、キャンパス公開に時期を合わせて、世の中があつと驚く研究成果の論文発表を企画してみてください。先端研に行けば、「今日発売の科学雑誌〇〇に載っている研究成果の実物がいくつも見られる」となると、プレスも来訪者ももっと大勢来てくれることでしょう。



RCAST Report - 活動報告 -

Research - 研究成果 -

2012年4月25日

- ・「障がい児学習支援のためのタブレット端末活用事例集を発行」についてプレスリリースしました。

2012年4月26日

- ・西成活裕教授（数理創発システム）と HONDA との共同研究の成果「渋滞抑制を目指した渋滞予兆検知技術を開発 5月より公道実験を開始」がプレスリリースされました。

Events - 講演会・シンポジウム etc.-

2012年4月5日

- ・地球環境問題にかかる国際交渉の動向～気候変動問題及びリオ+20等～を開催しました。

2012年4月13日

- ・田中敏明特任教授（人間情報工学）が実施した「足・腰振動刺激付きバランス機器による高齢者転倒予防連続講座」についての報告を先端研ホームページにて公開しました。

2012年4月23日

- ・第36回講演会「全固体化リチウムイオン2次電池の最新研究開発動向」を開催しました。

2012年4月25日

- ・先端研の菅原琢准教授（政治学）が「平成の日本政治」をテーマにカフェセミナーを開催しました。

2012年5月23日

- ・2012日本地球惑星科学連合大会で、気候変動科学分野の中村尚教授が国際セッション「Air-sea interaction and climate」を主催、25日には学生・若手を対象としたスペシャルレクチャー「異常気象と気候変動科学」を行ないました。

International - 国際関連 -

2012年5月24日

- ・フランスの国立科学研究センター（CNRS）と次世代太陽光発電技術を中心とした新エネルギー研究開発に関する包括的連携協定を締結しました。

Media - メディア etc.-

2012年4月4日

- ・4月3～4日にかけて全国に春の嵐をもたらした台風並みの「爆弾低気圧」について、中村尚教授（気候変動科学）が「テレビ朝日スーパーJチャンネル」で解説しました。

2012年4月11日

- ・日経新聞朝刊の27面に玉井克哉教授（知的財産法）が執筆した『経済教室』が掲載されました。

2012年5月6日

- ・日経新聞朝刊で、中村尚教授（気候変動科学）が4月3～4日に全国に春の嵐をもたらした台風並みの「爆弾低気圧」について解説しました。

2012年5月16日

- ・朝日ニュースター「ニュースの深層」で「障害者の視点で考える社会福祉のあり方～障害者自立支援法改正はなぜ問題なのか」をテーマに、福島教授と熊谷講師がインタビュー取材を受けました。その発言がVTRで紹介されました。

2012年5月20日

- ・日経新聞の朝刊15面（サイエンス）で、中村尚教授（気候変動科学）が初夏を思わせる暑さの中で、竜巻や突風、落雷をもたらした「上空の寒冷渦」の成因について、解説しました。

2012年5月27日

- ・毎日新聞朝刊15面に、池内恵准教授と橋爪大三郎（社会学者・東京工業大学教授）との対談「二つの「赤軍」事件」が掲載されました。

2012年5月31日

- ・『週刊文春』2012年6月7日号の「文春図書館」に、池内恵准教授（イスラム政治思想）がD・ヤーギン著『探究 エネルギーの世紀』の書評を寄稿しました。

2012年6月8日

- ・NHKラジオ第1放送「私も一言 夕方ニュース」に中村尚教授（気候変動科学）が出演しました。

Other - その他 -

2012年5月9日

- ・本年の先端研新任研修及び新人歓迎会を開催いたしました。

Information

Winning - 受賞・評価 -

2012年5月8日

・春の叙勲で元先端研教授の堺屋太一先生が旭日大綬章を、ボードメンバーの阿部博之先生が瑞宝大綬章を授与されました。

2012年5月25日

・巖淵研究室(支援情報システム)の博士課程2年の日野祥智さんが、記録管理学会の「記録管理学奨励賞」を受賞しました。

2012年5月28日

・生田研究室(医用マイクロマシン)の安井真人さん(2010年度修士課程修了)、池内真志助教、生田幸士教授が、日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門講演会2011で発表した「中空マイクロカプセルによる光硬化樹脂の軽量化」の研究が、2012年度ROBOMECH賞を受賞しました。また、安井さんは日本機械学会フェロー賞、元生田研究室の加藤大香士さん(現・名古屋大学)はベストポスタープレゼンテーション賞も受賞しました。

2012年5月28日

・西成研究室(数理創発システム)の今村卓史助教らの研究論文「Exact Solution for the Stationary Kardar-Parisi-Zhang Equation」(KPZ方程式の厳密解)が5月10日発行の「Physical Review Letter」に掲載され、「Editor's suggestion」に選ばれました。(詳細は次号)

HR - 人事情報 -

2012/4/16 採用

DY JOANNE TING 特任研究員

2012/5/15 任期満了退職

内田 聡 特任准教授

(転出先: 東京大学教養学部附属教養教育高度化機構 特任教授)

2012/5/31 辞職

Manzhos Sergei 特任助教

(転出先: シンガポール大学)

2012/6/1 採用

Giorgi Giacomo 特任助教

(前職: 東大工学部 特任研究員)

Event - イベント情報 -

2012年6月20日

・福島事故後の原子力とエネルギー技術戦略—グローバルな知のネットワーク化と社会システム・イノベーションを目指して—
場所: 東京大学先端科学技術研究センター 13号館 1階旧教授会室

主催: 東京大学環境・エネルギー研究会

※定員に達しました。

2012年7月23日~27日

・化学的エネルギー貯蔵に関する国際ワークショップ "SolChES 2012"

場所: フォレスト仙台

主催: 東京大学総括寄付講座「太陽光を機軸とした持続可能グローバルエネルギーシステム」

Book - 新刊 -

疑う力

西成活裕著: HP 研究所 2012.5 刊

風景の思想

西村幸夫 [ほか] 編: 学芸出版社 2012.6 刊

2012/6/1 採用

林 剛介 特任助教

(前職: ボストン大学 博士研究員)

大里 直樹 特任研究員

(前職: 横浜市立大学大学院医学研究科 特任助教)

Lafitte Nicolas, Alexandre, Martin 特任研究員

竹内 典子 学術支援専門職員

(前職: 東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員)

新谷 清香 学術支援専門職員

宮木 純子 学術支援専門職員

(前職: 東京大学先端科学技術研究センター 事務補佐員)

Report

2012年6月7日

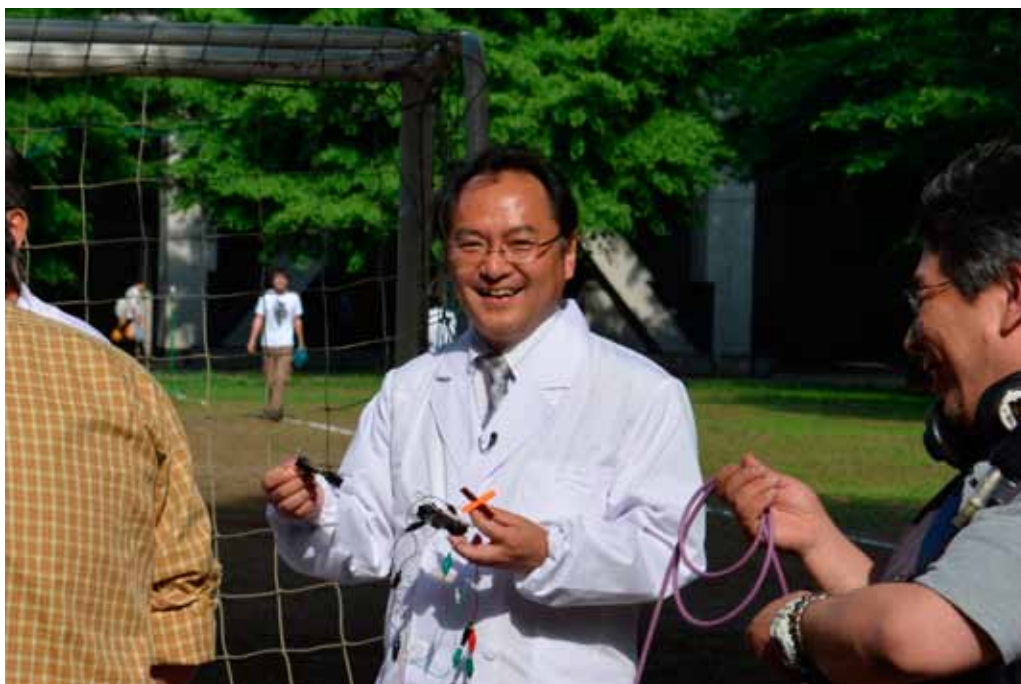
・瀬川研究室(エネルギー・環境: 瀬川浩司教授)にBS Japan「地球・アステク」がやって来た! 放送日時が決定いたしましたら先端研 HP、Facebook、メールマガジン等でお知らせいたします。



撮影中の瀬川先生

発行：東京大学先端科学技術研究センター
〒153-8904 東京都目黒区駒場 4-6-1
<http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp>

広報委員：
神崎亮平（委員長）、鈴木宏正、酒井寿郎、岡田至崇、池内恵、ティクシェ三田
アリエス、巖淵守、渡邊克巳、ジョージ・オルコット、野口香織、北別府由美



満面の笑みで取材に応じる瀬川教授。取材元は BS Japan「地球・アステク」。放送は7月中旬の予定。

お詫び：今号の「先端研探検団 II」、「リレーエッセイ」はお休みいたします。

先端研ニュース 2012 Vol.03 通巻 78 号

発行年月：2012 年 6 月
印刷：株式会社総北海
編集：先端研ニュース編集委員
© 東京大学先端科学技術研究センター
転載希望などのお問い合わせ
press@rcast.u-tokyo.ac.jp

この冊子は植物インキを使用しています。

編集後記

今年のキャンパス公開は初日にスコール (?) がありましたが、天気にも恵まれて大勢の方にご来場いただきました。ありがとうございます。1年に1度、皆様に研究成果を見ていただけるこのキャンパス公開、研究者の奮闘ぶりが少しでも伝わったなら嬉しく思います。(の)

今年は広報担当としてカメラを片手にいろんな展示をのぞかせていただきました。「説明しましょうか?」と声を掛けられるとうれしくなり、今まで疑問に思っていたことをこごとばかりに一気に質問。気が付いたら太陽電池の展示の前で説明者とのトークが盛り上がり、20分以上居座っていたことも…。キャンパス公開期間中は、いつもより研究者との距離を近く感じた! という来場者の方もきっと多かったのではないのでしょうか?(北)。